

学習指導案の形式（例） 高等学校数学科

数学〇 学習指導案 〇〇高等学校 〇〇科 〇年〇組 〇〇名 平成〇〇年〇〇月〇〇日（〇） 第〇校時 〇年〇組教室 指導者 〇〇 〇〇							
単元 (題材)	あるまとまりをもった教育内容の単位の名称を書く。「章」や「節」を基準にする。 第〇章 〇〇〇〇 第〇節 〇〇〇〇 教科書 〇〇〇〇 出版社 〇〇〇〇						
目 標	〇 (関心・意欲・態度) 〇 (数学的な見方や考え方) 〇 (数学的な技能) 〇 (知識・理解) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 学習指導要領で示された目標及び内容、生徒の実態を踏まえて設定する。 (必ずしもすべての観点を踏まえた目標を記入するということではない。) </div> ※文末表現例「～しようとする。」「～できる。」など [生徒の立場で書く]						
指導上 の立場	〇生徒の実態 生徒の興味・関心・意欲、単元（題材）に関する知識・技能、既習事項の定着度など前単元（題材）までの実態や本単元（題材）で育成を目指す力を明確にして書く。 〇単元（題材）観 取り上げる単元（題材）の内容、既習事項との関連、今後の展開、その単元（題材）を取り上げる意義、単元（題材）・教材と生徒との関係などを明確に書く。 〇本単元（題材）で工夫する点や手立て 指導・支援の力点、学習形態、仮説、その他の配慮事項など、生徒のよさや可能性を生かすような工夫や手立てを具体的に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 指導者が学習内容及び生徒をどのように理解して授業を計画しているかが分かるように記述する。 目標、生徒の実態、単元（題材）観、工夫・手立ての関連がわかるように述べる。 これまでの指導と評価を踏まえる。 研究主題が設けられている場合には、研究主題の説明を簡潔に記述し、研究主題と授業研究における指導仮説との関連を明確にして書く。 </div> [指導者の立場で書く]						
指導と 評価の 計 画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%; text-align: center;">主な学習活動</th> <th style="width: 50%; text-align: center;">評価規準，観点，評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第一次 〇〇〇〇 ……〇時間 ※本時が含まれている学習のまとまり(次)については、 第1時 〇〇〇〇 〇 を考察する。 第2時 〇〇〇〇 ……(本時) 〇 を求める。 第3時 〇〇〇〇 〇 をまとめる。 のように時案を示して、単元全体における本時の位置付けを明確にするとよい。 ※生徒の活動を具体的に書く。 [生徒の立場で書く] </td> <td style="vertical-align: top;"> 〇評価規準（観点）＜評価方法＞ ※目標に示している観点と整合性をもたせて、それぞれの学習のまとまりにおける中心的な評価場面について、おおむね満足できる状況（B）の具体的な姿を示す。 ※学習対象や学習活動に応じて、評価する場面を想定し、必要な評価機会に位置付ける。 ※評価規準文末表現例 ～（し）ようとしている。（関心・意欲・態度） ～（する）ことができる。（数学的な見方や考え方） ～（する）ことができる。（数学的な技能） ～を身に付けている。／～を理解している。（知識・理解） </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第二次 〇〇〇〇 ……〇時間 第1時 〇〇〇〇 〇 を理解する。 ※生徒の活動を具体的に書く。 [生徒の立場で書く] </td> <td style="vertical-align: top;"> 〇～を理解している。（知識・理解）＜ノート＞ </td> </tr> </tbody> </table>	主な学習活動	評価規準，観点，評価方法	第一次 〇〇〇〇 ……〇時間 ※本時が含まれている学習のまとまり(次)については、 第1時 〇〇〇〇 〇 を考察する。 第2時 〇〇〇〇 ……(本時) 〇 を求める。 第3時 〇〇〇〇 〇 をまとめる。 のように時案を示して、単元全体における本時の位置付けを明確にするとよい。 ※生徒の活動を具体的に書く。 [生徒の立場で書く]	〇評価規準（観点）＜評価方法＞ ※目標に示している観点と整合性をもたせて、それぞれの学習のまとまりにおける中心的な評価場面について、おおむね満足できる状況（B）の具体的な姿を示す。 ※学習対象や学習活動に応じて、評価する場面を想定し、必要な評価機会に位置付ける。 ※評価規準文末表現例 ～（し）ようとしている。（関心・意欲・態度） ～（する）ことができる。（数学的な見方や考え方） ～（する）ことができる。（数学的な技能） ～を身に付けている。／～を理解している。（知識・理解）	第二次 〇〇〇〇 ……〇時間 第1時 〇〇〇〇 〇 を理解する。 ※生徒の活動を具体的に書く。 [生徒の立場で書く]	〇～を理解している。（知識・理解）＜ノート＞
主な学習活動	評価規準，観点，評価方法						
第一次 〇〇〇〇 ……〇時間 ※本時が含まれている学習のまとまり(次)については、 第1時 〇〇〇〇 〇 を考察する。 第2時 〇〇〇〇 ……(本時) 〇 を求める。 第3時 〇〇〇〇 〇 をまとめる。 のように時案を示して、単元全体における本時の位置付けを明確にするとよい。 ※生徒の活動を具体的に書く。 [生徒の立場で書く]	〇評価規準（観点）＜評価方法＞ ※目標に示している観点と整合性をもたせて、それぞれの学習のまとまりにおける中心的な評価場面について、おおむね満足できる状況（B）の具体的な姿を示す。 ※学習対象や学習活動に応じて、評価する場面を想定し、必要な評価機会に位置付ける。 ※評価規準文末表現例 ～（し）ようとしている。（関心・意欲・態度） ～（する）ことができる。（数学的な見方や考え方） ～（する）ことができる。（数学的な技能） ～を身に付けている。／～を理解している。（知識・理解）						
第二次 〇〇〇〇 ……〇時間 第1時 〇〇〇〇 〇 を理解する。 ※生徒の活動を具体的に書く。 [生徒の立場で書く]	〇～を理解している。（知識・理解）＜ノート＞						

本 時 案 (第〇次の第〇時)		
目 標	○ (数学的な技能) ・単元(題材)の指導計画に則して、本時の学習活動の目標を具体的に示す。 ・本時の評価規準との整合を図る。 ・ねらいを明確にした授業づくりのために1～2つの目標に絞り込む。 ※文末表現例「～しようとする。」「～できる。」など [生徒の立場で書く]	
学習活動	指導・支援上の配慮事項など	評価規準, 観点, 評価方法
[生徒の立場で書く]	[指導者の立場で書く]	[生徒の立場で書く]
1	○ めあて(生徒に提示する本時の目標)を、実線で囲んで書く。	
2 (1)	○	
(2)	○	○評価規準(観点) <評価方法>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 学習過程に沿って、生徒の活動を具体的に書く。 </div> <p>※文末表現例 ～を音読する。 ～を書く。 ～をまとめる。 ～について考える。 ～について話し合う。 ～に慣れる。 など</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 指導過程に沿って、指導・支援の意図、工夫、手立てなどについて留意すべきことを具体的に書く。 ・指導と評価の一体化を図る手立て ・生徒が主体的に学習を進める手立て ・効果的な学習方法や学習形態の工夫 ・予想される生徒の反応 ・「努力を要する」状況(C)に至ることのないよう配慮する点 ・「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への具体的な手立て 学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 本時の目標との整合を図る。 評価の観点は、1～2つ程度に絞る。 </div> <p>※評価方法例 観察, 生徒との対話, ノート, ワークシート, 学習カード, 作品, レポート, 小テスト, 質問紙, 面接, 自己評価表, 相互評価表 など</p>
3	○	○評価規準(観点) <評価方法>

※学習指導案作成上の留意事項

- 書式は固定的なものではない。生徒に提示する活動のねらいやそれを達成するための手立てを具体的に表現するのに適した書式を選択する。
- どのような書式を選択しても、次の点は学習指導案から読み取れるようにする。
 - 生徒がどのような目標をもって活動すればよいのか、また、生徒がその目標を達成できるように、指導者がどのような手立てを講じているか。
 - 指導の中で評価がどのように位置付けられ、どのように活用されているか。
- 評価規準の設定に当たっては、『評価規準の作成, 評価方法の工夫改善のための参考資料—高等学校—』(平成24年7月国立教育政策研究所)を参考にして、生徒の発達の段階を踏まえ、単元の指導のねらいを明確にするとともに、当該単元に位置付ける言語活動と取り上げる指導事項に応じて、適切に設定することが望ましい。なお、「十分満足できる」状況(A)と判断する際のキーワードとその具体的な姿の例や、ABCの評価の尺度を示すこともある。